

| | | | |
|----|----|---------|-----|
| 二年 | 国語 | Gアップシート | 読む6 |
|----|----|---------|-----|

| | |
|---|------|
| 組 | 番・氏名 |
|---|------|

★朝読書の本の選び方を考え、意見をまとめよう

◇ある学級で「朝読書ではどんな本を読めばいいのか」ということが話題になりました。そこで図書委員の山内さんは、次の評論文を読んで、この問題について学級のみんなに意見を発表することにしました。

□皆さんは桃太郎を知っているだろうか。桃から生まれた桃太郎が、サルとキジと犬を連れて、人々を困らせる鬼を退治するという日本の昔話である。誰でも小さな頃は、わくわくしながら桃太郎の活躍を見たり聞いたりしたのではないだろうか。しかし、成長した今でもそんな気持ちをもってこの物語を読んでいる人はまれであろう。なぜそうなっていくのかというところ、成長と共に、このレベルのお話では物足りなくなっていくからである。では、どのような部分が物足りなくなっていくのか、桃太郎の昔話にはどんな部分が不足しているのか。そのことを、桃太郎の物語を大人でも鑑賞できる小説にするためにはどうすればよいか、という視点で考えてみよう。



□まず一つめは、時間と場所の不特定さがある。桃太郎の話は「昔々、あるところに・・・」で始まるが、小説では世界観が重要な意味を持つので、細かい設定とその説明が求められる。現実の世界（江戸時代の何々地方など）と設定するならばその記述だけで説明は必要ないが、今度は正確な時代考証が欠かせない。架空の世界や遠い未来を設定するならば、読み手にその世界がどういう所なのか、どんな価値観で人々は行動しているのかを細かく説明しなくてはならない。漠然とした世界観では読み手のイメージが揺れてしまうのである。

□次に、人物像の設定を確かなものにしなくてはならない。物語の脇役におじいさんとおばあさんが登場するが、子供がいなかったこと、桃太郎を拾って育てたこと、出発の前にキビダングを持たせたこと以外には特に描写がなく、このままではどういう人たちなのかよくわからない。桃太郎も同様で、昔話の描写だけでは正義感のある少年であることの他は、桃太郎の人物像が明らかにならない。

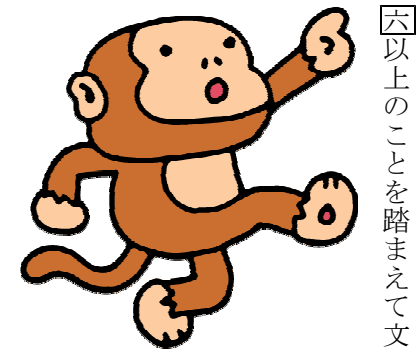
このままでは読み手が登場人物に共感したり感情移入したりすることができず、物語のおもしろみを感ずるのが難しいものとなる。

□三つめはリアリティの問題だ。昔話は子供向けのファンタジーなのでやむを得ないのだが、桃から子供が生まれたり、動物たちをキビダングで仲間にするなど、そのままだと現実として考えるのは難しい部分が多い。小説にするためにはこういういった不思議な出来事一つ一つに筋の通った理由をつけて

いくことが必要となる。桃太郎のお話の場合、現実の出来事として根拠を求めていくのは難しいので、桃太郎は宇宙人であった、桃だと思っていた物は小型の宇宙船であった等、SF小説として構成するという方法もある。いずれにしても一つ一つの事象に根拠を持たせるのは必須だ。



〔五〕四つめは登場人物の心理描写についてだ。昔話では出来事が主に語られており、その時々で登場人物がどう思ったのかについては触れられていない。よく考えてみると、鬼ヶ島おにがしまに行くのにお供が動物三匹なら、普通は自分の命の危険を考え行くのをためらうところだろう。また、桃から子供が生まれるのを見たおじいさんとおばあさんの驚きもどれほどのものだっただろうか。物語に深みを加えるためには登場人物の心の葛藤かっとうを描き、そこからどう実際の行動につながっていくのかをはっきりさせる必要がある。これを怠ると、登場人物が心のないロボットのようにになってしまう、生き生きとした物語にならない。登場人物の心理描写なしに小説は成立しないのだ。



〔六〕以上のことを踏まえて文章を作っていけば、昔話桃太郎を大人でも楽しめる小説として構成することができよう。もちろんその過程では一つ一つの描写もより詳しくなることが求められるが、そこが作者のオリジナリティが大いに発揮される部分であり、腕の見せ所である。また、この手法は桃太郎に限ったことではない。他の昔話でも同様の視点から小説化することが可能だ。浦島太郎でもさるかに合戦でも、自分の思い出の昔話をモチーフに小説を書いてみてはどうだろうか。きっと世界に一つだけの、「自分流昔話」ができあがることだろう。

(高橋智子「文学のいろは」より)

| | | | |
|----|----|---------|-----|
| 二年 | 国語 | Gアップシート | 読む6 |
|----|----|---------|-----|

| | |
|---|------|
| 組 | 番・氏名 |
|---|------|

★朝読書の本の選び方を考え、意見をまとめてみよう

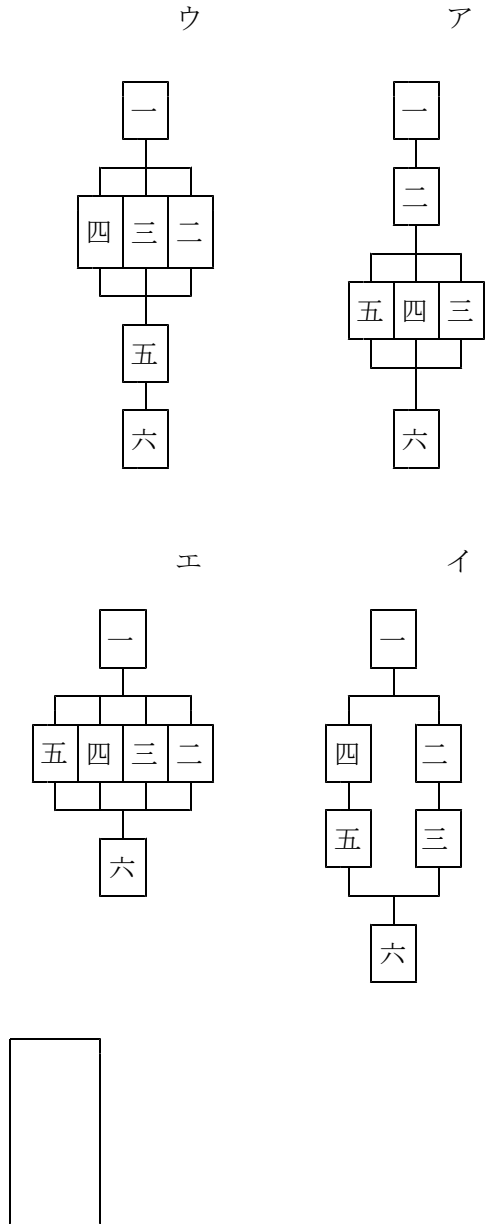
問一 山内さんは リアリティ という言葉の意味がわからず、辞書で調べたところ「現実感。真実性。」という意味であることがわかりました。次のア～オの中で、リアリティに欠けていると本文中で指摘されているものを全て選びなさい。

【論の展開の上で重要な役割を果たしている語句に注意しながら読む】

- ア おばさんが川で洗濯をしていたこと。
- イ 桃から子どもが生まれたこと。
- ウ 桃太郎がすくすくと成長したこと。
- エ 桃太郎がキジをお供にしたこと。
- オ 桃太郎は宇宙人であったこと。

問二 次のア～エは文章の内容を整理した段落の構成図です。最も適切にまとめられている構成図を一つ選びなさい。

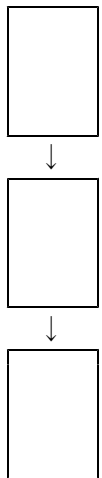
【各段落の役割をとらえる】



問三 文章中の□～○段落は、それぞれ同じような論の順序で叙述されています。どのような順序で書かれているか、ア～オから適切なものを二つ選び、叙述の順に並べなさい。

【叙述の順序に注意して読む】

- ア 昔話桃太郎の記述の矛盾点の指摘。
- イ その段落で説明する内容の提示。
- ウ 小説化するための方法の説明。
- エ その段落における問題点の補足。
- オ 昔話桃太郎における記述の分析。



問四 山内さんは読み手に分かりやすくするために筆者が行っている工夫について、A、Bの二つのことに気づきました。それぞれのようなことを根拠として気がついたのか、あくから選ぶべきか。

【文章の構成や展開の工夫について、根拠となる部分をあげて自分の考えをもつ】

- A 桃太郎の昔話を小説化するためのポイントを、読み手が理解しやすくしている。
 B 筆者の考えがいくつの具体例から説明されているか分かりやすくしている。

- ア 読み手に問いかける形で進行している叙述の仕方。
 イ 桃太郎の昔話の記述に不足している部分の具体的な指摘。
 ウ 文章全体を簡潔な常体の言葉遣いで記述していること。
 エ 桃太郎の昔話を小説にしようという視点の提示。
 オ それぞれの段落の始めの「一つめは」等の記述。

| | |
|---|--|
| A | |
| B | |

○山内さんは学級の前で意見を述べるために、発表メモを作りました。

問五 次の発表メモのうち、発表のテーマに最も適しているものを一つ選びなさい。

【テーマについて、自分の知識や体験と関連付けながら考えをもつ】

ア ◇小説を書くときには気をつけることがある

- ① 昔話と小説には違いがある
- ② 違いの具体例
 - ・設定の具体化
 - ・リアリティある展開
- ③ 小説を書くときには細かい描写にも注意しながら書こう

イ

◇中学生に適した本を選んで欲しい

- ① いろんな本を読んでいる人がいるのが気になる
- ② 本によってレベルの差がある
 - ・リアリティのある設定
 - ・心理描写の細かさ
- ③ 絵本や童話ではない、中学生に合ったレベルの本の選択をして欲しい

ウ

◇昔話は中学生は読むべきでない

- ① 昔話を読んでいる人がいて、中学生としてどうなのか疑問だ
- ② 昔話はファンタジーである
 - ・リアリティがない
 - ・ありえない展開が多い
- ③ 昔話は小さな子供が読むべきで、中学生は読むべきでない

エ

◇朝読書の本の選び方

- ① 図書室で迷っている人がいるので、アドバイスがしたい
- ② 本の選び方のポイント
 - ・挿絵の量、文字の大きさ
 - ・事実に基づいたストーリー
- ③ 迷ったときは図書委員に聞いて、適切な本を選びましょう

【読む6 朝読書の本の選び方を考え、意見をまとめよう】

問一 イ、エ 問二 エ 問三 イ↓オ↓ウ 問四 A ア B オ
 問五 イ

解説 問一 意味のわからない語句が遭ったときには辞書で調べましょう。その際、調べて意味がわかっただけで、文脈の中ではどのように用いられているのか考え、文章の理解につなげるのが大切です。

問二 文章全体を大きくとらえ、おおまかな流れで意味をつかむと、書き手の一番言いたいことが見えてきます。その際、段落の構成が一つの手がかりになりますので、それぞれの段落がどのようにつながり合っているのかを意識しながら読むようにしましょう。

段落の最初のつなぐ言葉（まず、次に等）がヒントになります。この問題では、二、五段落の最初には「まず一つめは」「次に」「三つめは」「四つめは」とナンバリングされているので、それぞれが並立になっっていることがわかります。六段落は「以上のことをふまえて」で始まっているので、それまでの部分をまとめていいるということがわかります。

問三 構成を考えるとときには、文章全体に対する各段落の構成の仕方だけでなく、各段落内での文の構成についても考えると理解がしやすくなります。特に書き手の主張に対する根拠の段落では、段落内の構成を同じにすることによって読み手に分かりやすい文章にすることができるので、文章理解の手がかりにしましょう。

問四 自分の考えを持つときには「意見」と「意見を裏付ける根拠」がセットになる必要があります。意見と根拠のつながりにズレがあると、説得力を失ってしまうので気をつける必要があります。根拠となる部分が複数ある場合には、最も強く裏付けるものを選びましょう。

問五 読み取った内容を自分の意見に生かす時には、内容を文章上のことだけにとどまらせず、自分の知識や体験とつなげることが重要になります。目的によって文章中のどの部分を使うのかが変わってくるので、自分の意見に合わせて必要な部分を用いるようにしましょう。「ウ」は話題が昔話を読むべきかどうかになっており、どんな本を選ぶべきかはすれています。